

第四十四日目

師 範：徳川吉宗が行った享保の改革からおよそ30年。

幕府の財政はやはり苦しくなってきました。

ここで登場したのが経済改革派の田沼意次(おきつく)でした。

彼は名門の出身ではありませんが、どんどん力をつけてきて、中心となって幕府の再建、特に財政の再建に努めることになりました。



各地の特産品を大切にしておもてなしをさかんにして、消費もさかんにして、経済活動を積極的に拡大する路線をとりました。

この路線に反対して登場したのが松平定信です。

彼は将軍になりそこねた人でした。田沼意次によって将軍を継ぐ地位を奪われてしまったのです。

そのうらみが田沼政治のすべて逆をいく改革をとらせたとも言われます。

ぜいたくはもちろん、消費も節約する生活を武士や町人や農民に求め、経済活動を年貢の安定した収納におきました。

政治を批判するような学問や出版などを禁止し、きびしく取り締まりました。

この寛政の改革は1787年に始まりました。

1787年 定信が寛政の改革をはじめた。

この年を覚えましょう。

ペン太：寛政の改革は1787年から93年までの7年間だけでした。



「寛政の人 名はなんといいても松平定信」

「ひと」は1、「名」は7、「は」は8、「なん」は7としました。

師 範：語呂はよくなっています。

すこし長いかなと思いますが、七・八・八ですね。

コン太：では



「田沼から一転つらいな花の定信」

17は「(つら)いな」、87は「はな」と読みました。

師 範：苦労していますね。

五・七・七の調子になっているので言いやすいですね。

寛政の改革の引き締めイメージが出ていることと、田沼から定信への順も言えていますから、いいですね。ただ寛政という言葉が入らないのが残念ですね。